したるを記するより見れは之を窩濶台時代一二三五年に設けられたる驛路なりといふも、或は誤なからんか、もと
より燕都と上都との間の如きは、世祖時代に至りては、尚ほ此外に二路の存在せしを見る、一は居庸關より延慶、
赤城を經て獨石口に出て白塔兒より桓州を經て上都に達するもの、二は古北口より北上するもの之れなり、周伯琦
の扈從北行前記、王惲の中堂事記等によりて是等の道によりしもの
を認む可からす、併せて當代驛路を知るの助けとなすを得んか。

（東洋協會調査部學術報告第一册、明治四十二年七月）

緒言